

豊水

Vol.32(平成23年12月)

静岡県水産技術研究所
深層水科
駿河湾深層水水産利用施設
〒425-0032 静岡県焼津市鯛ヶ島 136-24
Tel 054(620)8911 Fax 054(629)1255

海洋深層水利用学会全国大会(伊豆大会)が開催されました

海洋深層水利用学会第15回全国大会(伊豆大会)が「海洋深層水と生きる、新しい日本へ」というサブタイトルで、去る11月17日と18日の両日、伊東市の伊東商工会議所において開催されました。

今回の大会は、伊豆海洋深層水利活用組合とその上部組織である伊東商工会議所、ならびに伊豆赤沢で海洋深層水事業を始めた㈱DHCの海洋深層水研究所など、民間の団体や企業の方々が主体となって開催準備が進められました。

当日の参加者は150名を数え、主催者の予想を大きく上回り盛会となりました。特に学生の参加が20名と近年になく多く、しかもその多くが台湾から来た方々でした。

当研究所からは、「マナマコの初期発生期における生物学的零度」「水温の異なる駿河湾深層水で飼育したアマゴの成長と生残および成熟」および「駿河湾深層水の魚油に対する抗酸化効果」と題して口頭発表しました。また、当研究所の研究者が一般講演の「海洋・水質関連の部」と「生物・水産関連の部」の座長を務めました。さらに、特別シンポジウムで「水産増養殖分野への可能性ーアカザエビの養殖ー」と題して講演しました。

一般講演では、海洋・水質関連で3題、生物・水産関連で8題、農業・畜産関連で2題、健康・医療関連で7題、および利活用システム関連他で8題の、計28題の発表があり、なかでも、若手研究者や台湾や韓国の研究者の発表が多くみうけられました。特に、健康・

医療関連では、海洋深層水の新たな活用方法が示され、興味を持たれました。

特別シンポジウムでは、今大会のサブタイトルである「海洋深層水と生きる、新しい日本へ」を具体的に展望することを目的として、5人の演者が登壇し、それぞれの専門分野から深層水の持つ可能性を紹介しました。当研究所の講演に対しては、韓国の研究所の方からコストについての質問がありました。国内の深層水事業は現在コストが大きく問われていますが、このことは韓国でも同様であることが推察されました。

海洋深層水の一時的ブームが去り、海洋深層水利用学会も退会者が相次いだりしていますが、今回の大会の成功を見ると、海洋深層水の展望はまだまだ開けていくであろうと期待されました。

(吉川昌之)



写真 深層水科研究者による口頭発表